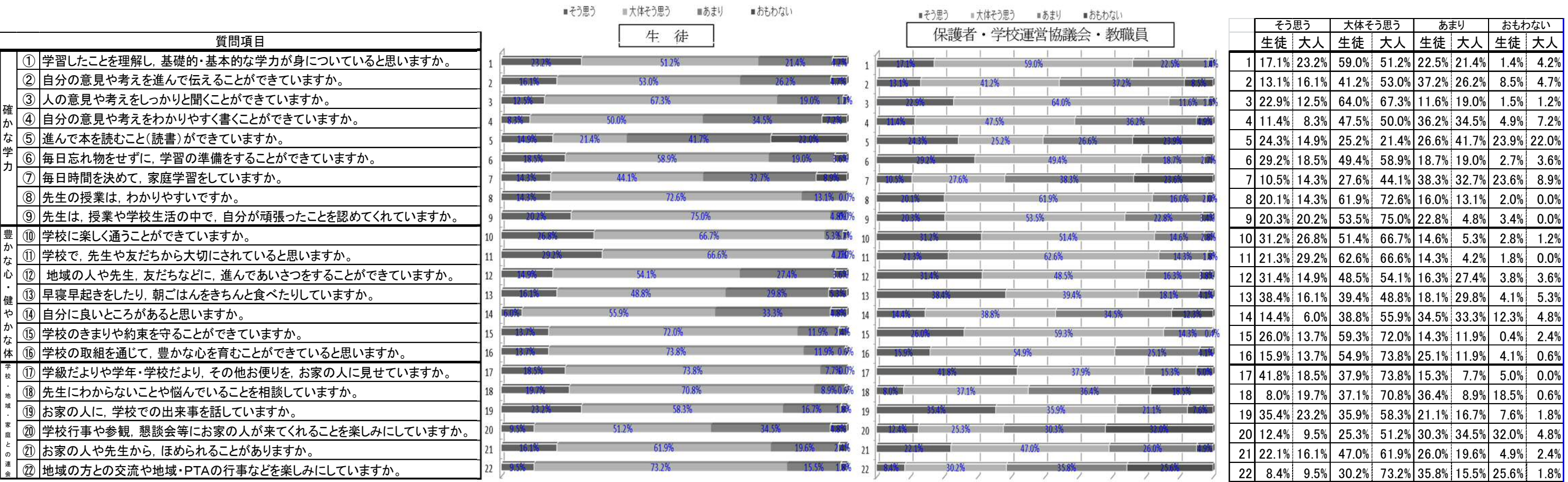


○目指す子ども像（共通） 主体的に学び、互いに思いやり、認め合い、助け合う児童生徒
重点目標（児童生徒の共通する課題より）（1） コミュニケーション能力を育成するための“言語活動の充実”～聞き取る・読み取る・伝え合う）（2） 自己有用感や自己肯定感などの自尊感情の醸成
○洛西中学校めざす生徒像 1. 主体的に学び・行動できる生徒 2. 何事にも一生懸命に頑張る、粘り強い生徒 3. 思いやり、認め合い、助け合う生徒



「確かな学力」（アンケート番号①～⑨）

「確かな学力」
◇1年12月、2・3年10月に行われた学習確認プログラムでは、各学年の平均点は全市平均と比べ2～3ポイント低かった。また、各教科の得点分布に着目してみると、上下2つのピークがある「学力の二極化」が3学年ともにみられ学力差は大きい。

① 基礎的・基本的な知識・技能の定着

アンケート①「基礎・基本」の結果についておおむね良好であるものの、確プロでは基礎基本的な事項等の理解不足がみられる。⑧⑨「授業」については肯定的にとらえていることから、授業の工夫により課題改善に努めたい。とともに、家庭での復習時間の確保や繰り返し練習することも必要である。

② 表現力の向上

アンケート③より人の意見は聞ける生徒は多いが、アンケート②④「意見発信」の項目（自分の意見や考えを「伝える」「書く」）については、生徒・大人ともに課題があると捉えている。授業や学級等での取組、各種調査結果からも「伝える」「読み取る」「書く」といったことには課題が見受けられ、これらの力を育成することが、社会に出て自立した生活を送る（コミュニケーション等）上でも重要である。その点では、アンケート⑤の「読書」の項目の結果も気になるところである。小中が連携して改善のための取組を進めていきたい。

③ 家庭学習の習慣化

アンケート⑦「家庭学習」の項目について、テレビ・ゲームやスマホ・携帯電話に費やす時間が多く、家庭学習の時間に影響が見られる。家庭学習の習慣化が図れるよう取り組んでいきたい。

「豊かな心・健やかな体」（アンケート番号⑩～⑯）

「豊かな心・健やかな体」
◇アンケートの結果より、概ね肯定的な意見であるが、項目毎に見ると、課題が見られる部分がある。

① 豊かな心の育成

アンケート⑭「自分により所がある」について低い結果である。自尊感情の醸成に継続して取り組む必要がある。

② 基本的生活習慣の確立

アンケート⑬「早寝早起き朝ごはん」について、「できている」と答えている生徒は多いが、家庭学習同様、スマホ・携帯が基本的生活習慣に影響していると思われ、生徒・保護者への啓発や保護者との連携が必要である。

③ 心の通うあいさつができること

アンケート⑪「あいさつ」について、生徒と大人の意識の開きが大きい。普段、生徒は授業や話し合い活動で“単語”のみで発言することも多いことから、あいさつにも同様な傾向があることは想像できる。また、あいさつをすればあいさつを返してくれるようにはなってきたが、自ら進んであいさつをするという点では、まだまだ課題が見られる。生徒会のあいさつ運動をはじめ、今後も継続した取組が必要である。

「学校・家庭・地域との連携」（アンケート番号⑰～㉒）

「学校・家庭・地域との連携」
◇アンケートの結果より、大人の評価は良好であるが、生徒の評価には気になる点がある。

① 開かれた学校づくり

アンケート②「地域交流」について、生徒の意識は低い。将来、生徒自身が社会と繋がり、社会に貢献する大人となっていくためには、生徒自身が身の回りの大人たちに支えられている、大人たちと繋がっている、関わりがあるといった実感を得られることが大切ではないかと考えている。

② 子どもの良いところを見つけ、ほめること

アンケート⑩「先生に相談」⑭「ほめられる(ほめる)」⑳「保護者来校」について、生徒と大人の差が大きい。家庭・学校が協力し、子どもとていねいに接すること、子どもたちのことを認め、ほめることで、子どもたちの自信へつなげることができるよう、はたらきかけていくことが大切である。